

5 入来中学校の実践

(1) これまでの具体的な取組

あいさつ

ア 全職員の共通理解

- ・ まず教師側からあいさつをすることを確認し実践した。
- ・ 授業の始まりや終わりのあいさつを徹底させた。
- ・ 来校者に対するあいさつを適宜指導した。

イ 「あいさつ運動」の充実

- ・ 生徒会役員や週ごと決められた学級全員で校門に立ち「あいさつ運動」を実施した。
- ・ P T A生活指導部の方々に輪番制で月曜日を中心に「あいさつ運動」に参加してもらった。
- ・ 「あいさつ運動」のときに、生徒会生活部が中心になり週ごとの標語を校門に掲示し活性化と意識化を図った。



ウ 一人一人への声かけ

- ・ 一人一人の生徒の日々の変容を見逃さないために「一日一回は一人一人に声をかける」ことを進めた。
- ・ 日常の観察や健康状態の観察を通し、生徒理解に努めた。
- ・ 学級担任と教科担任との連携を図り、教育相談等を通して個々の生徒への指導に生かした。



エ 月別スローガンの決定、掲示による意識化

- ・ 生徒会生活部の活動に取り入れ、主体的な生徒会活動の充実を図った。

返事

ア 全ての教育活動の中での返事の徹底

- ・ 全校朝会や集会活動を通して、返事をすることの意義を指導し、意識化を図った。
- ・ 部活動を通して、指導や指示に対してしっかり返事をする習慣化を図った。



イ 意思表示の徹底

- ・ 学級会等の特別活動や授業を通して表現活動の充実を図る

ウ 月別スローガンの決定，掲示による意識化

- ・ 生徒会生活部の活動に取り入れ，主体的な生徒会活動の充実を図った。

家庭学習の習慣化

ア 課題（家庭学習）の確実な点検

- ・ 学級担任と教科担任との連携を図り，長期休業中の課題の確実な点検を実施した。
- ・ 課題の内容を確実に理解させ実行させるために，適切な指示とその工夫に取り組んだ。



イ 「生活の記録」の学習欄の確実な記入と点検

- ・ 学習の記録を確実に記入させることで学習の習慣化を図った。

ウ 定期テスト，単元テストへの取組の具体化

- ・ 学習のポイントを提示し，自主学習を促した。
- ・ 「定期テスト対策」として，学習時間や数値目標を掲げさせ取り組ませた。

エ 教科間の連携

- ・ 宅習の量については教科間で調整した。

(2) P T A や地域への啓発や具体的取組

学年・学級 P T A ， P T A 役員会，運営委員会，ブロック P T A （年 2 回）などあらゆる機会を捉えて啓発を行った。また，学校便りや学校行事を通して家庭や地域の方々の意識化を図った。

(3) 成果と課題

学力向上と日々の基本的な生活習慣の確立には密接な関連があると考えます。そこで，日々の生活を見つめ直し，「あいさつ」「返事」「家庭学習」の定着の視点に立ち，実践を進めてきた。

良好な集団づくりや人間関係づくりの基礎となる「あいさつ」はコミュニケーションを図る上で重要と考え，「返事」では意思表示をはっきりさせることを目指し，さらには「返事をしっかりできること」は自己表現力につながるのとらえた。「家庭学習」では自発的な学習習慣を身につけさせることを目指し，まずは改善できずぐに取り組みめることに絞って進めてきた。

その結果，全体的にはあいさつがよくなってきた。自ら進んであいさつする生徒が増えてきた。しかし，まだ，積極的にあいさつできない生徒もいる。来校者へのあいさつはよくできるようになり，意識が高まっている。しかし，生徒同士ではあいさつをする生徒としない生徒の差が激しいようである。「返事をしっかりする」については，学校生活全体で適時指導を進めてきたため，全体の場での返事がよくなってきた。ただ，個人差が大きく意識が高まった生徒と，そうでない生徒との差があるように思われる。学力向上に直接関わる「家庭学習の習慣化」では，決まった時間に取り組む生徒とテレビ視聴などに影響されやすい生徒がいるようである。学習に対する意識にも個人差があるようで，目的意識を持って取り組ませたい。家庭学習の習慣化は家庭との連携が不可欠なため家庭への啓発も更に進めていきたい。